

ロケットの輸送について (KSC)

吉山 巖

まえがき 観測ロケットの発射実験場が、秋田県道川実験場より、鹿児島県内之浦町長坪の新実験場に移転することとなった。道川実験場までのロケットの鉄道輸送は東京より3日間で道川駅に到着し、道川駅と実験場との距離は約2kmしかなかったため、輸送に伴う梱包、ロケットの処理等について格別の配慮をしなくてもよかった。しかし、新実験場のように遠隔地で、国鉄駅から数十km離れた道路環境もロケット輸送にはあまり好ましくない状態なので、これらに対し、また将来大型ロケットの輸送についてもさらに検討することが必要となってきた。調査は陸上のみでなく海上輸送についても行なわれたが、内之浦港の設備が不十分のため当分の間は陸上輸送にたよる結果となった。

1. 陸上輸送経路 現在のところロケットは川越市役所の帝国火工品工業KK内の梱包室で梱包箱に収納され、川越より陸路荻窪駅までトラックで運搬され、荻窪駅から貨車積まれ鹿児島県大隅高山駅で日本通運のトラックに積み替え、高山町より波見部落を経て内之浦町に入り新実験場に搬入される。第1図は波見部落より新実験場に至る道路を示すもので極めて曲折が多い。

2. ロケットの梱包について 秋田県道川実験場の場合には輸送日数が比較的短かったため、耐湿度性につい

ては格別の注意を払わなかったが、新実験場の場合には特に厳格に処置することとした。すなわち

ロケットの型式	K-150型	K-240型	K-420型	K-730型	K-1420型
シリカゲル (gr)	100	150	250	600	4000

上記の表に示すシリカゲルをエンジン内に挿入することとし、ノズル部は布テープ等で密閉することとした。

梱包箱は道路事情が極めて悪いので、長時間、2g程度の荷重に十分耐える構造とすることにし、特に長さ方向の曲げに対しては十分な剛性を与えるよう特に配慮し、また2g程度のショックに対してロケットに傷を与えないよう当木部分にはフェルトまたは合成ゴム等を使用する等の処置を施すことにした。

3. 輸送状況について 大隅高山駅に到着したロケットは、貨車よりトラックに積み替えられる。第2図の写真はトラックに積み替える模様である。トラックに積み替えたロケットは、高山警察署のジープを先導として、時



第2図



第3図

速10km/hの速度でゆっくり運搬される。第3図は波見部落を経て内之浦町地域にさしかかる運搬中のトラックでカーブが急であることを示す一例の写真である。

昭和38年度にあっては鹿児島県庁の配慮により道路事情が極めて良くなり、大型ロケットの輸送にも支障をきたさないようになり得る。これらの点についてはロケット輸送を担当するわれわれにとっては、まことにありがたいことで、鹿児島県庁の方々のご協力に対しては心より感謝する次第で、また輸送を担当される日本通運鹿屋、高山支店の皆様にも深く感謝の意を誌上をかりて表す次第である。

(1963年4月9日受理)



第1図